

(財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6
TEL 03-3502-3671(代) / FAX 03-3502-3265
ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>
E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

第 227 号/2008.8

Index

- 第 60 回 定例理事会 報告
- 第 47 回 評議員会 報告
- ENAA 成果発表会 2008 開催報告
- 新規受託事業紹介
- (財)JKA 補助事業 平成 20 年度 委員会報告
- バイオマス起源 DME を含むエネルギー貯蔵・供給システムの開発 第 1 回 委員会報告
- 大深度地下を活用した首都圏物流トンネル・新システムの可能性調査 第 1 回 委員会報告
- 新任のご紹介
- 退任のご挨拶
- 会員の皆様へのお知らせ
- 田中彰一東京大学名誉教授が内閣総理大臣表彰を受賞

■第 60 回 定例理事会 報告■

平成 20 年度の第 60 回定例理事会が 6 月 24 日(火)14 時 30 分より、当協会において開催されました。

議事は以下のとおりで、いずれも承認されました。

- 第 1 号議案 平成 19 年度事業報告(案)および決算報告(案)について
- 第 2 号議案 平成 20 年度(財)JKA(旧:日本自転車振興会)からの補助金を受け入れて補助事業を実施する件について
- 第 3 号議案 専務理事の選任について
新専務理事には小澤通成氏が選任された。
就任日は、7 月 1 日。
- 第 4 号議案 評議員の交替に伴う委嘱について
次の方々の評議員交替がなされた(敬称略)。
新任:岡田 満(飛島建設(株) 取締役兼執行役員)
辞任:戸村和彦

新任:前川 治((株)東芝 電力システム社統括技師長)

辞任:須藤 亮

- 第 5 号議案:資産運用規程の制定について
- 第 6 号議案:役員報酬規程および役員退職金規程の改正について
- 第 7 号議案:組織規程の改正について
本理事会において承認された平成 19 年度事業報告および、決算報告については、ホームページに掲載。
▼詳細はこちら

<http://www.ena.or.jp> 協会の概要 欄参照。

なお、平成 14 年 8 月より約 6 年間、専務理事を務められた小島 襄氏が 6 月 22 日付をもって退任され、6 月 23 日付けをもって(財)クリーン・ジャパン・センターの理事長にご就任されました。

■第 47 回 評議員会 報告■

平成 20 年度の第 47 回評議員会が 6 月 24 日(火)12 時 30 分より、当協会 6 階会議室において開催されました。議題と議事内容の概要は、以下のとおりです。

- 第 1 号議案 理事の選任について
新任および交替の理事は次のとおりです(敬称略)。
新任:小澤通成
辞任:小島 襄

新任:藤岡治郎

- 第 2 号議案 平成 19 年度事業報告および決算報告について
- 第 3 号議案 資産運用規程の制定について
- 第 4 号議案 役員報酬規程および役員退職金規程の改正について
- 第 5 号議案 組織規程の改正について

■ENAA 成果発表会 2008 開催報告■

当協会では、7 月 9 日(水)~7 月 11 日(金)までの 3 日間、恒例となりました研究成果発表会 2008 を開催

しました。地下開発利用研究センターは、7 月 11 日(金)午後に入澤常務理事の挨拶の後、平成 19 年度受託テ

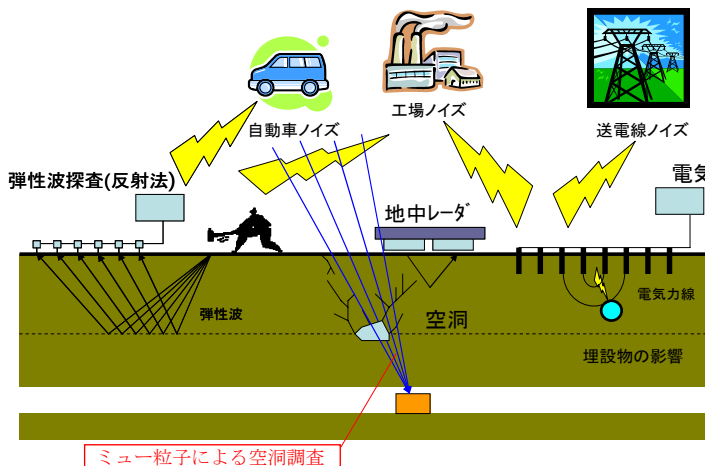
ーマを含めた諸活動の研究成果について発表しました。

また、当日は二酸化炭素推進室の岩野原モニタリング、全国貯留層賦存量調査の発表もあり、石油センターと併せて 13 セッションにおよぶ盛り沢山の成果発表

表会となり、各セッションとも深く興味を持たれた多数の方々(最大97名)が参加されて大盛況となりました。次年度の開催も、より一層の充実をはかって努力してまいります。

■新規受託事業紹介■

□ミュー粒子の工学応用による地中空洞化システムに関する調査研究



平成 20 年 6 月 23 日に、(財)機械システム振興協会より、「ミュー粒子の工学応用による地中空洞化システムに関する調査研究」を受託しました。

昨今、地中の空洞により地上の陥没と事故が生じる災害事例が多く報告されていますが、災害発生前に空洞を調査診断する技術システムは確立されていません。

地上からの探査では産業施設や埋設管等の下の探査は不可能で、解決が求められています。

本調査研究は、これを解決するため、自然宇宙線のミュー粒子を利用した探査機械システムの要素技術実現を目指して調査研究を行うことを目的とします。

調査研究の主な計画内容は以下のとおりです。

- (1) 開発動向の調査および測定対象のしぼり込み
- (2) 計測システムの研究
- (3) 測定方法と解析技術の研究
- (4) 要素技術の整理と実用化課題研究

なお、当センター内に、地下・岩盤、物理探査、放射線、地盤、電力、地下鉄などの専門家で構成する調査委員会を設置し、調査期間内に、3 回の委員会を開催する予定で、第 1 回委員会は、平成 20 年 8 月 19 日(火)に開催する予定となっています。

□平成 20 年度「大規模災害に対する中堅中小企業の事業継続セーフティネット調査」

平成 20 年 6 月 20 日に、(財)機械振興協会経済研究所より、「平成 20 年度 大規模災害に対する中堅中小企業の事業継続セーフティネット調査」を受託しました。

本調査では、もし中堅・中小企業が首都直下型、東海・東南海地震等で被災して操業停止となった場合、または被災後の市場混乱により間接的に操業停止に追い込まれた場合に、中堅・中小企業が受けるダメージや操業再開が可能となる条件・程度について探り、同時に BCP の対策がなされない理由や課題について調査して、中堅・中小企業の事業継続に必要なセーフティネットのあり方について検討することを目的として、調査研究を実施します。

具体的には、以下の調査を実施します。

- (1) 中堅・中小企業のセーフティネットの仮説策定
- (2) 被災経験地域のヒアリング調査
- (3) 大規模被災想定地域および同地域を市場とする中小企業等へのヒアリング・アンケート調査
- (4) 仮説の策定・成果とりまとめ・課題抽出

なお、当センター内に、防災、BCP、リスク、情報、金融・保険などの専門家で構成する調査委員会を設置し、調査期間内に、3 回の委員会を開催する予定です。

第 1 回委員会は、平成 20 年 8 月 7 日(木)に開催いたします。

■(財)JKA 補助事業 平成 20 年度 委員会 報告■

※本事業は、競輪の補助金を受けて実施しています。

□バイオマス起源 DME を含むエネルギー貯蔵・供給システムの開発 第 1 回 委員会報告

標記事業の平成 20 年度 第 1 回委員会(委員長:中川 加明一郎、(財)地球環境産業技術研究機構 地球環境産業技術研究所 CO2 貯留研究グループ 主席研究員)が、平成 20 年 6 月 23 日(月)に当協会会議室で開催され、平成 20 年度の実施計画に基づき、調査研究の進め方が審議されました。

1. 目的

本調査研究の目的は、多用途で環境にも優しく次世代燃料としての期待が大きい DME に着目し、バイオマスから製造する DME を含むエネルギーの貯蔵・供給システムを検討することであり、その実現に向けた技術的課題や、事業性・環境影響の検討を行って、わが国のエネルギー多様化戦略の一環として提案するものです。

2. 研究内容

これまでの調査結果を基に、モデル地域における

DME の貯蔵・供給システムを調査して、以下の項目を検討します。

- (1) バイオマス起源 DME 製造法の調査方法の検討
 - ・効率的なバイオマスガス化プロセスの調査検討
 - ・バイオマス起源 DME 生産プロセスの調査検討
- (2) DME を活用したエネルギー貯蔵・供給システム成立性に関する検討
 - ・モデル地域の詳細調査
 - ・DME 生産・貯蔵施設の概念計画
 - ・DME の流通・利用施設の検討
 - ・システムの経済性・環境影響の検討
- (3) バイオマスを活用した DME の貯蔵・供給システムにおける可能性の提案

□大深度地下を活用した首都圏物流トンネル・新システムの可能性調査 第 1 回 委員会報告

標記事業の平成 20 年度第 1 回委員会(委員長:高橋 洋二、日本大学総合科学研究所教授)が、平成 20 年 6 月 24 日(火)に当協会会議室で開催され、平成 20 年度の実施計画に基づき調査研究の進め方が審議されました。

1. 目的

これまでの研究により、大井埠頭に荷揚げされるコンテナを、大深度地下に建設するトンネルで八王子付近まで鉄道輸送する物流システムの可能性を明らかにしました。今後は、コンテナを深度 40m 以深で輸送した後、中間のインランドデポや終着の八王子付近での流通システム、取り扱い、複合的な利用方法、事業性等を検討して、社会に提言することを目的とします。

2. 活動内容

(1) 将来流動量の推定

- ・環状道路(圏央道、外環道)整備後のコンテナ流動量の試算

- (2) 新輸送システム全体計画
 - ・港湾施設計画、内陸・中間デポ施設計画、トンネル施設計画を策定し、概略コストの算定
- (3) 事業採算性の検討
 - ・事業スキーム、採算計算、公的助成の必要性、複合的な利用方法、ビジネスモデルと課題検討
- (4) 外部経済効果の把握
 - ・環境保全策、改善効果の推定、経済効果の把握、公的助成のあり方の研究
- (5) 大深度地下を活用した首都圏物流システムの可能性の提言

■新任のご紹介■

加藤 猛士 (技術開発第二部 主任研究員)

平成 20 年 7 月 16 日付けで、技術開発第二部にお世話になることとなりました、加藤と申します。出身会社は川崎地質株式会社です。平成 5 年に入社後、勤務地はずっと東京ですが、専門が岩盤を対象とす

る土地質であるため出張業務が多く、その大半を他県で過ごしてきました。また、建設省への出向、象牙海岸共和国への出張等を経て、色々な方々や地域の皆様との交流が良い経験となっています。これ



からお世話になります
地下開発利用研究
センターでの業務は、
今までより幅が広く、
様々な専門分野の皆
様とご一緒させてい
ただくことと存じます。

既に、様々な業務を担当させていただき、日々、四
苦八苦しています。

皆様からのご指導を頂戴しながら、自己研鑽を怠
らず、エンジニアリングの発展に少しでも貢献でき
るよう努力してまいりますので、どうぞ、よろしく
お願いいたします。

(平成 20 年 7 月 16 日 着任)

■退任のご挨拶■

小林 克則（前 技術開発第二部 主任研究員）

平成 20 年 7 月 15 日をもちまして、3 年間お世話に
なりました地下開発利用研究センターを卒業すること
となりました。在任中は、NEDO 事業「高効率熱電変
換システムの開発」、「革新的熱電発電材料に関する調
査」、「次世代型熱電発電技術に関する調査」および「地
圏科学技術研究会」を担当させていただきました。

すべてがこれまでとは異なる種類の業務でしたが、
幅広い技術分野に携わることができ、とても貴重な経
験をすることができました。合わせて、多くの方々と

お知り合いになれましたことを大変嬉しく思い、今後
の私の人生においての大きな財産になったと思ってお
ります。

この 3 年間、至らぬ点、多々有ったとは存じますが、
皆様方より多大なるご指導・ご鞭撻を賜り、誠に有り
難うございました。

最後になりましたが、皆様方の益々のご発展とご健
勝を祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。

(平成 20 年 7 月 15 日 退任)

■会員の皆様へのお知らせ■

□田中彰一東京大学名誉教授が内閣総理大臣表彰を受賞

当センターが多大のご支援を頂いております、田中
彰一東京大学名誉教授におかれましては、国民安全の
日（平成 20 年 7 月 2 日）に挙行された平成 20 年度安
全功労者内閣総理大臣表彰式において、安全功労者内
閣総理大臣表彰を受けられました。

功績の概要としましては、鉱山保安の重要事項を調
査審議する中央鉱山保安協議会委員及び可燃性天然ガ
ス資源の開発に係わる重要事項を審議する石油審議会
委員等として、資源開竣工学の分野における学識経験
者の立場から、石油鉱山保安の確保、保安技術の普及
及び向上、保安教育の推進に当たり、鉱山保安を始め
とする産業安全の向上に多大な貢献をしたものと伺っ

ております。心からお慶びを申し上げます。



受賞される田中彰一東大名譽教授

■8 月のサロン・ド・エナは、休会します。

□第 310 回サロン・ド・エナ開催のご案内

日 時：平成 20 年 9 月 17 日(水)17：30～20：00 （於：当協会 6 階 CDE 会議室）

テーマ：低炭素社会への担い手 ～風力発電エンジニアリングの課題と展望～

講 師：8 月上旬 H/P に掲載します。

講演要旨：8 月上旬 H/P に掲載します。